

## 適材適所！

「木造住宅は町の中の森林」最近よく聞かれる言葉です。8年前に温室効果ガスの規制を目的として制定された京都議定書が施工されました。アメリカの離脱など当初の目的からは少しトーンダウンした感がありますが、地球温暖化を防ぐ意味でもぜひとも実行していかなければならないと思います。

この京都議定書は各国が目標を立てて、温室効果ガスである二酸化炭素の発生量を削減していこうと言うものですが、木材による二酸化炭素の固定量の増加も認めています。すなわち、伐採した木材を住宅などで使い、長い間固定化すると同時に、再植林により新しく二酸化炭素を固定化していけば良いのです。しかし、国産材自給率 19%を割り、国内林業が疲弊した今、誰が山の手入れをするのでしょうか？森林ボランティア、漁民の森など色々な活動があります。でも本当に山を活性化する方法は、やはり山で生活する人が増え、相応の収入を得ることではないでしょうか。林業が生業として成り立つ為には私達が国産材を積極的に使い、十分採算が取れるようにすることです。国産材の良い所をしっかりとアピールして、適材適所の材料選びを勧めましょう。

では住宅に使われる材の選び方はどうすれば良いのでしょうか。コストも重要なポイントですが、耐朽性という観点からの説明も出来るのではないのでしょうか。「坪〇〇円」という大手ハウスメーカーに対抗する為にも「一生に一度か二度の、高い買い物である住宅を長持ちさせることは、結局は安い買い物をした事になります。構造材は少々高くてもしっかりしたものを選びましょう。」と大いにアピールしましょう。では耐朽性のある木材とはどういう木材でしょうか？調べてみました。

耐朽性 極大 チーク芯材 他

大 桧、ヒバ、コウヤマキ、樺、栗、米ヒバ、米杉等の芯材

中 杉、唐松、翌檜、白檜、タブ、米松等の芯材

小 赤松、黒松、樅、ブナ、コナラ等の芯材

極小 蝦夷松、トドマツ、ラジアターパイン、ホワイトウッド等の芯材

耐蟻性 大 ヒバ、コウヤマキ、イヌマキ、イス、タブ、紅桧、チーク等の芯材

中 桧、杉、榎、米ヒバ、栗、樺、赤檜等の芯材

小 全ての材の辺材、赤松、黒松、米松、米榎、ホワイトウッドの芯材

「適材適所」とは有用な材料をその材に適した場所で使うという日本に伝わる先人の知恵です。住宅を造ろうとしている方々に、木材の特徴を伝え、メンテナンスが容易で、より健康的な環境を作り出すことのできる木造住宅の振興に努めましょう。

### 【情報】

株木材新聞社が一般消費者を対象にした情報誌「アルチェッポ」を創刊しました。

全国の住宅金融公庫支店において、住宅建築予定者に無料進呈しています。

「住宅・木材無料なんでも相談コーナー」という企画もあり、企業が行う営利目的とは違い、第三者的立場から、業界の情報を分析して回答してくれるそうです。

【定休日】5月は1, 3, 4, 5, 8, 15, 22, 29日となります

6月は4, 5, 12, 13, 18, 19, 25, 26日となります

ご協力をお願いします。

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)

